

◎オブザーバーからのご意見について【第1回専門部会】

No.	章	節	節名	ページ	意見等
1	1	1	文化・スポーツの振興	第1章1ページ	【現状と課題】 各種イベントの開催やキャンプ地誘致等に使える施設が現在あるのか？ないのであれば、地域振興も考えて、市の周辺部に作って、波及効果ができるようにしてほしい。旧市に限られるのであれば、反対。
2	1	1	文化・スポーツの振興	第1章2ページ	「1. 芸術文化活動の推進及び環境の整備・充実」 本市にゆかりのある先人といっても、田中絹代や藤原義江は今後知る人が減るばかりではないか。
3	1	1	文化・スポーツの振興	第1章3ページ	「3. 文化財の保護活動の推進」 川棚のクスの森などは、保護の仕方に問題があったと思う。遺跡についていえば山陰地域は古くから大陸とのつながりも大きく、土井ヶ浜や中ノ浜遺跡、甲山古墳群など、文化的に価値のある遺跡があるのに、相応の扱いを受けていないのがもったいない。 幕末のお台場跡なども、きちんと史跡であることを明示してほしい。
4	1	1	文化・スポーツの振興	第1章3ページ	「(2)スポーツ活動の場の整備・充実」、「(3)スポーツによる地域活性化」 スポーツ活動は官提供の施設のみならず、民間企業が経営する施設のウェイトも高い。ゴルフ場(練習所を含む)、ボーリング場、スポーツジム等の利用者も多く、トータル的な施策においてはこの実態を勘案すべきである。 【追加案文】 民間事業者の活動を把握し、所要の連携を考慮していきたい。
5	1	2	観光・レクリエーションの振興	第1章7ページ	「2. 観光資源の充実」 豊田町の「ホテル」や「道の駅」が例示であがっているが、なぜか。
6	1	2	観光・レクリエーションの振興	第1章7ページ	「3. 外国人観光客の誘致」 現在外国人がどこに行っているのか、今後どこに行かせたいのかを教えてほしい。
7	1	2	観光・レクリエーションの振興	第1章8ページ	「4. ボートレース事業の振興」 下関市の財政運営上、この項目を掲げることは理解できないわけではないが、ギャンブルに対する否定的な意識を持つ市民も多い。特にいわゆる「カジノ法」成立を踏まえ、マイナスイメージに対処すべきである。 【追加案文】 なお、場外船券発売所周辺の適正管理及び整備に努めるとともに、ギャンブル依存対策についても取り組んでいきたい。

No.	章	節	節名	ページ	意見等
8	1	3	連携・交流の推進	第1章 12ページ	「3. 人口定住の促進」 「関係人口」を増やすより、移住者を引き付けることにお金を注ぐべき。「関係人口」の意味が分からない。
9	1	4	国際化の推進	第1章 13ページ	現在下関市に外国人がどのくらい、どんな仕事で入国しているのか、支援組織はあるのか、留学生は本当に勉強目的で正規に入国しているのか。かなりダブルワークをしていると聞いている。
10	1	5	都市全体の価値・魅力向上	第1章 16ページ	市内には様々な地域があり、それぞれの歴史がある。「海峡の街」でひとくりにされ、歴史を消されてしまつては、愛着も誇りも感じられない。
11	2	1	農林水産業の振興	第2章3 ページ	「(3)漁業生産基盤の整備」 昨年末に漁業法や水協法が改正され、来年中には新しいルールが施行される見通しです。 また、沿岸の共同漁業権区域などは海洋保護区にも指定されていることもあり、沿岸域漁場保全団体が新たに記されていることから、この項目において、沿岸の資源管理や生物多様性の保全等に積極的に取り組む方向性を記す必要があると考えます。
12	3	1	子ども・子育て支援の充実	第3章3 ページ	「(4)児童虐待への対応」 児相の職員は教育や児童の問題に関する専門知識をもっているのだろうか。こういうところにきちんと専門の人員を配置することが絶対に必要だと思う。
13	3	2	一人ひとりの生きる力の育成	第3章4 ページ	「現状と課題」 女子のスポーツへの関心についての記述が唐突な気がする。関心が低いことを裏付ける資料があるのか。
14	3	2	一人ひとりの生きる力の育成	第3章4 ページ ～	教育について、要求が非常に多いが、これに見合うだけの教員の数、質、研修、報酬等を確保できるのか。全てをこなすのは現状では絶対無理。教員の労働条件の改善などはどこにもふれられていないが、必須条件。そうでなければ、環境の良い所を求めて、教員も集まらなくなる。
15	3	2	一人ひとりの生きる力の育成	第3章5 ページ ～	「2. 豊かな心の育成」 ”…学校・地域で読書活動の推進を担う人材の育成を図るとともに…”とあるが、ボランティアに押し付けようとしているのはおかしい。図書館の司書や学校司書をきちんと身分を保証して雇うべき。
16	3	2	一人ひとりの生きる力の育成	第3章6 ページ	「3. 健やかな体の育成」 食育や地場産食材の使用については萩のほうがはるかに進んでおり、見習うべき。

No.	章	節	節名	ページ	意見等
17	3	3	学校の教育力の向上	第3章9ページ	「3. 教育環境の整備」 旧市内のように交通が便利な所はどんどん学校を統廃合すればよい。現状では部活が成り立たない中学校がかなりあると思う。そのうえで、耐震工事なども考えるべきで、そうでなければお金が無駄になる。空いた土地を太陽光発電などに利用すればよい。 また、教育にかける予算がどんどん減って、学校が困っていると聞く。お金は将来のために使うべき。
18	3	4	社会全体の教育力の向上	第3章12ページ	「3. 学校・家庭・地域の連携」 コミュニティスクールの理念は良いが、本当に学校や地域にとってプラスの面ばかりだろうか。
19	3	5	生涯を通じた学ぶ機会の提供	第3章14ページ	生涯を通じて学ぶための拠点である公民館を減らそうとしているのが現状ではないか。公共施設の削減の方向と総合政策が乖離しすぎ。旧市内のように民間も合わせて文化施設が沢山あるところと、周辺部では状況が全く違うことを考慮してほしい。
20	3	7	男女共同参画の推進	第3章19ページ	男女という書き方が、すでに男性が先。女男でもよさそうだが、そうはならない。下関では男女で賃金に差はないのだろうか。
21	3	7	男女共同参画の推進	第3章19ページ	「現状と課題」 働く場面で女性の力が十分に発揮できていない理由は何か、市がどのようにかかわればそれが解消できるのかが分からない。
22	3	7	男女共同参画の推進	第3章19ページ	「現状と課題」 政策決定に女性の声を本当に入れたいのなら、自治会などの組織を利用する際に、女性を加えるように呼び掛けてはどうか。圧倒的に男性が多いと思う。
23	6	1	生活安全の推進	第6章3ページ	「(2)防災・減災対策の推進」 国民保護計画というのは、もうできているのだろうか。
24	6	1	生活安全の推進	第6章4ページ	「3. 交通安全対策」 高齢者の自動車運転事故や歩行者事故が多発しており、社会的な注目を集めている。免許証返納等を含め、項目出しを検討して欲しい。

No.	章	節	節名	ページ	意見等
25	6	2	公衆衛生の充実	第6章8ページ	<p>「2. 動物の愛護及び管理の推進」 ペットに対するニーズの高まり(特にねこブーム)は著しいものがある。一方、飼い主(特に高齢者)のモラル低下も社会問題となっている。さらに殺処分に対する批判も大きいものがある(他地方公共団体や海外では、殺処分をやめたところもある)。これらの現状を踏まえ、一段の施策アップを期待したい。</p> <p>【追加案文】 ・「ねこの適正飼養に関するガイドライン」を有効活用し、<u>殺処分「0」をめざし、当面その減少を図ります。</u> ・(その他、適当な箇所に)ボランティア団体等の連携を深め、という文言の追加</p>
26	6	4	上水道の整備	第6章11ページ	<p>「現状と課題」 水道法が改正されたが、官民連携の推進とあるが、もうその方向で進んでいるのか。最終的に民間に委託するような可能性があるのか。</p>
27	6	6	河川・海岸環境の整備	第6章15ページ～	<p>高潮については山陽の方での被害が大きかったと思うが、これについてはすでに対策ができてきているのか。</p>
28	6	6	河川・海岸環境の整備	第6章16ページ	<p>「2. 海岸環境の整備・保全」 (2)の高潮対策は「港全体」のみならず、市の臨海部全体にわたるものであり、(1)と(2)を一体的にまとめることを検討されたい。また、下関漁港区域内の海岸及び港湾区域外の海岸(一般海岸)は山口県が海岸管理者であることから、連携の必要があり、住民との協力も重要である。</p> <p>【追加案文】 <u>整備や管理において、山口県等と一体的連携に努めるとともに、臨海部住民との協力体制を構築する。</u></p>
29	7	1	保健・医療の充実	第7章3ページ	<p>「1. 健康づくりの促進」 市民の運動を意識づけるのなら、宇部市が行っているような、体操やウォーキングを続けたら低額でも何らかの賞が得られるような取り組みを考えたら良いと思う。特定の行事への参加は、住んでいる地域によって参加が難しいことがある。</p>
30	7	2	地域福祉の充実	第7章8ページ	<p>市の区域別の地域福祉についての説明を聞きにいったが、郡部は記述内容が一緒だった。本当に地域に応じた福祉を考えているのか、大いに疑問。豊浦町では30年以上前から地区社協が高齢者や子どもも対象に先進的な様々な取り組みをしてきたが、合併して補助がどんどん減り、できなくなっている。</p>
31	8	1	地域のまちづくりの推進	第8章1ページ	<p>「1. 住民自治によるまちづくり」 まちづくり協議会は「自治会」との役割が不明確である一方、構成メンバーは主に自治会役員であると聞いている。実施内容も多くはイベント活動であり、まちづくりのイメージとは合致していない(まちづくりのハード面はそもそも主として自治体の業務)。市民からの要望で出来た施策とは聞いておらず、このあり方について、抜本的見直し(廃止を含め)を行うべきである。</p>

No.	章	節	節名	ページ	意見等
32	8	1	地域のまちづくりの推進	第8章1ページ～	議事録にはなかったが、ある委員の方が「まちづくり協議会」が何をしているかはわからないが、このような団体が活動することは「危険」だと言われ、担当の方が明確に反論されなかったのが残念だった。まちづくり協議会は、様々な問題を抱えながら、ほぼみなボランティアで活動しており、今、行政の強力な支援がなければ簡単に頓挫するような状況だと思う。総合計画の書き方は、厳しい状況をよくわかっていないという印象を強く受けた。
33	8	2	市民活動支援の推進	第8章4ページ	「2. 地域コミュニティ組織の育成支援」 自治会の会員は自宅所有者が主体であり、賃貸者の非会員が増大している。また役員の多くが高齢者であり、かつ固定的である。今後、団塊の世代がリタイヤし、高齢者、女性雇用が進めば、役員や活動的会員の確保が極めて困難となり、自治会の消滅が危惧される。なお、民生委員との積極的な連携も重要である。よって、本文に明確な方策を盛り込むべきである。
34	8	3	行政機能の充実	第8章5ページ～	前期基本計画であった「5. 本庁及び総合支所等の機能強化」が全くなくなっている。本当にコンパクトシティを推進しようと考えているのであれば、それぞれの地域の課題が総合支所で解決できるようにするのが不可欠。車もない高齢者はわざわざ唐戸まで出てこれない。今後下関に移住者が呼込めるとしたら、漁業や林業、農業地域こそが大きな受け手となると思うが、総合支所の機能充実が大きなポイントになると思う。
35	8	4	行財政の健全化	第8章8ページ	「基本方向」 やみくもな「地方分権」への取り組みが少々落ちつつあり、「道州制」への期待も薄れてきた現状において、国と地方公共団体、各々内部のセクショナリズムの克服こそが重要となってきた。その意図を含めて次の表現としたい。 【追加案文】 ○国、山口県と安定的関係を図りつつ、社会経済情勢の変化に柔軟かつ隙間なく弾力的に対応できる行政経営体の実現を目指します。